

WORK
労働

知事対談

労働を「朗働」に
——働く人々の
一層の幸せを目指して



労働時間の短縮、女性の職場進出、人手不足、定年延長、障害者の雇用……。 「労働」をとりまく問題は、実にさまざまなものがあります。加えて熊本県では、若年労働者の県外流出も依然多い状況です。豊かな自然と住みやすい生活環境を有するふるさと熊本で働きたいと思っている人たちのためにも、もっと魅力ある労働環境をつくりあげていくことは、私たち県民の務めであり、願いです。

今回は、労働の持つ問題、課題とそれぞれの立場で取り組まれている三人の方に、福島知事を囲んで話しあっていただきました。

自己紹介をお願いします。

内田 I N S 株式会社というソフト会社の九州支社事業部長をやっております内田です。

自衛隊に十五年ほどおりまして、そのうちの十年間コンピュータの仕事に携わってきました。熊本に母親を残したままですし、私も妻も生まれ育った環境の中で、もう一度生活してみたいということもありました。たまたま熊本で働く機会を得ましたので、六年ほど前に帰ってきました。現在 S E (システムエンジニア) の仕事をして

います。 U ターンして感じたことは、まず待遇面の格差。しかし東京では、一時間半ぐらいかけての通勤。それも混雑を避けるために朝六時頃にはもう出ていくわけで、それは非常にきつかった。そういった時間を費やす

のはもったいないという感じはしましたね。その点熊本は三十分程度ですから、その負担は軽くなりました。だから一長一短あります。

緒方 昭和六十年から済生会病院に看護婦として勤めている緒方です。一昨年九月に出産して一年間育児休暇をとり、昨年九月に復帰しました。夫と子供の三人暮らしです。子供は保育園に預けています。

看護婦になったのは、高校生の時に祖父が手術を受けた済生会病院の看護婦さんがイキイキと仕事をされているのが印象的でした。私にもできるだろうかと不安もありましたが、一生やっつけていける仕事、やり甲斐のある仕事と思ひ、看護婦になることを決心しました。特に都会に魅力を感じませんでしたので地元済生会病院に就職を決

めました。

橋本 八代の橋本モーターズの橋本です。四十年前に電気関係の仕事を始めまして、今

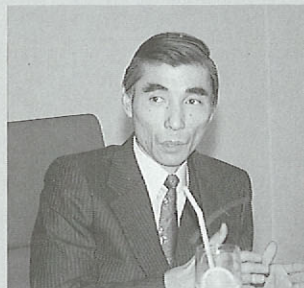
では自動車の本職のようになってしまいました。青春時代を軍隊で過ごし、経営について何も知らなかったもので、多くの人に教えるを受けてやってきました。その中で、同じ職場に集まる、毎日同じ職場で仕事をすると「何かの縁だ」というようなことは非常に大切なことだ」というようなことを強く感じるようになりました。それで、職場を楽しく作りあげ、楽しく働いていこうという考え方が根本にあります。現在も若い皆さんと一緒に毎日楽しくやらせていただいております。

橋本 末五郎さん



・八代市在住、71歳。
・株橋本モーターズ、南口ータスハシモト代表取締役。「会社は社会の公器であり、志を同じくする格差なき人間同士の集団である」という経営理念のもと、昭和50年に週休2日制(4週7休制)を導入。県内外で体験発表を行い、労働福祉の重要性及び中小企業の週休2日制の導入普及に貢献。

内田 道孝さん



・熊本市在住、44歳。
・15年間勤めた防衛庁を退職後、熊本へ。
・Uターンアドバイザー制度での登録1号。
・現在、I N S 株九州支社の責任者。

緒方 真奈美さん



・熊本市在住、28歳。
・昭和60年から、済生会病院に看護婦として勤務。平成2年9月から一年間の育児休暇をとり、同3年9月に復職。
・現在、内科・循環器科外来主任。